

週替わりで一息!!

第2065第76版)

今回の二十四節気・七十二候 (にじゅうしせつきしちじゅうにこう)

小寒(しょうかん) 「寒さが最も厳しくなる前の時期。『暦便覧』では、「冬至より一陽起こる故に陽気に逆らふ故、益々冷える也」と。この日を「寒の入」といわれ、これから更に寒さが厳しくなる頃。小寒から節分までの三十日間のことを「寒の内」といいます。寒さが明けると立春になります。この日から寒中見舞いを出し始めます。
和暦コラム歴生活・ぴお・ウィキペディアより

末候「一月十五日～一月十九日」雉始雉(きじはじめてなく) 69

「雄の雉が鳴きなじめる」雉が鳴き始める頃。雄が雌への求愛のしるしとして「ケンケン」と甲高い声で鳴きます。足の裏で震動を敏感に察知することができ、数秒早く地震を知らせることが出来ます。キジにまつわる言葉はあまりいい意味ではないようです。「けんもほろろ」という言葉は、「ケンケン」と鳴く雉の鳴き声に由来しているといわれ。雉の草隠れ「頭隠して尻隠さず」ということわざは、草むらに隠れたつもりになったキジの様子に由来しているとか、「キジも鳴かずば射たれまい」「長柄の人柱」にある短歌「ものいわじ 父は長柄の人柱鳴かずば雉も射たれざらまし」で余計な一言で災いを招く事を示すことなど。この様なキジが国鳥に選ばれた理由には、「メスは母性愛が強く、ヒナを連れて歩く様子が家族の和を象徴している」「狩猟対象として最適であり、肉が美味」など。

20年前の主なニュース (1997年13日～1997年1月19日 福井新聞縮刷版より)
・ロシア船籍タンカー「ナホトカ」の重油汚染事故で三国町安島に座礁した船首から重油700kℓ回収、荒天予報で中断の日私もありました。

「本日1月6日の金曜日」2016-17年度下半期」会長・幹事年頭所感の発表&新会員を迎えて!



■「2016-17年度下半期最初の日 会長・幹事年頭所感の発表、会長は20年前のダブルのスーツを着熟し、安田年度の中で計画立案した事業は皆さんのおかげで滞りなく実施できうまくいったと実感していると幹事の発言



私たちの仲間を迎えることが出来ました新入会員の紹介と誓いの言葉
おめでとうニコニコはの方々 四つのテスト私も 新年あけまして
1月6日・1月25日の誕生日 1月6日入会です おめでとう!